

SDGs 推進に役立つホテル旅館の業務の例

☆ “地元食材や地域の産物でおもてなしする”ことは、“フードマイレージ(注1)”を考慮すると、SDGs推進に貢献しています。

(注1:生産地から消費地までの運搬に必要なエネルギーを【食品重量×移動距離】で表したもの)

また、日本が2050年を目標として進めている“カーボンニュートラル(注2)”の有力な達成手段の一つであると言われています。

(注 2:温室効果ガスの「排出量」を削減するとともに森林などによる「吸収量」を差し引くことで、温室効果ガスを実質的にゼロにする取り組み)

★ホテル旅館で稼働する大きな設備機器は、“省資源・省エネルギー”に効果的な機器が使われており、環境負荷の視点からSDGs推進に役立っています。

☆コロナ禍で定着した、バイキング方式における小皿盛りでの料理の提供は、フードロス削減の視点から、SDGs推進に役立っています。

★夕食が無いビジネスホテルにあっては、地域のグルメ情報等をお客様に提供することで、地域の持続的な繁栄に役立っています。

☆ホテル旅館は地域の雇用の場であり、シーツなどのリネンの洗濯、客室の清掃、食材や酒類・飲料の仕入れなど裾野の広い地域の事業者や産業との連携を通じて、地域の持続的な繁栄に貢献しています。

★ホテル旅館は地域で行われる花火大会などのイベントや祭事・行事などへ、人的・経済的な援助をしており、地域の持続的な繁栄に役立っています。

☆災害時には、行政からの要請により、避難者の受入に協力することにより、住み続けられるまちづくりに役立っています。

他にも数多くの業務がSDGs推進に該当しています。詳しくは、「[宿泊業の業務が貢献するSDGs 目標の一覧](#)」をご覧ください。